



(題字 小黒千足 学長)

第372号

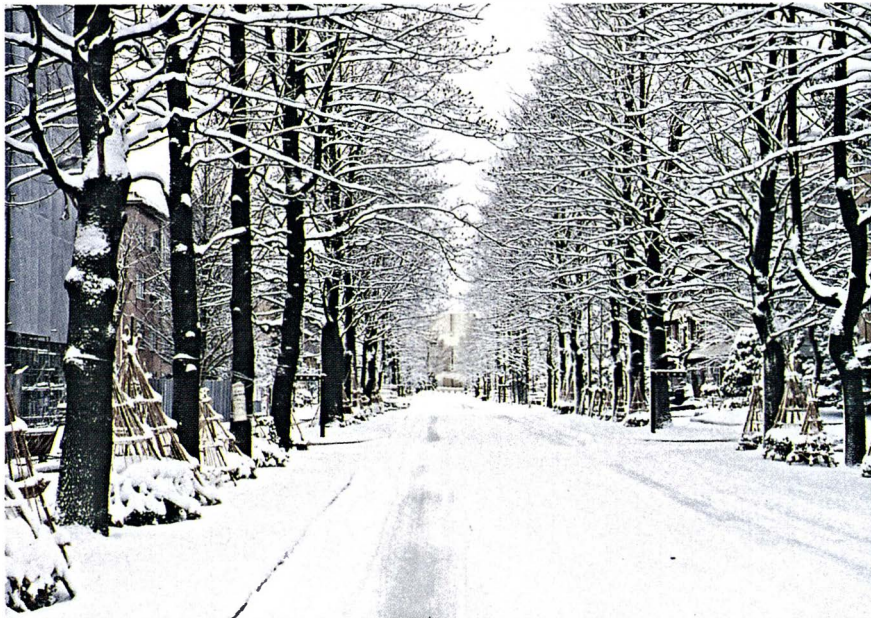
(平成7年12月号)



▲ 冬支度のキャンパス—降雪に備え雪囲い

目 次

関係法令	3	学内諸報	
学内規則	3	◆ 附属図書館長を再選	12
諸会議	6	◆ 日本留学フェア（中国北京市）に参加	13
学 事		◆ 富山県留学生等交流推進会議・座談会を開催	13
◆ 学位取得者	7	◆ 外国人研究者及び留学生との懇談会を開催	14
◆ 平成7年度科学研究費補助金の交付決定	8	◆ 海外渡航者	15
◆ 平成8年度入学者特別選抜試験を実施	8	◆ 外国人来訪者	17
人事異動	10	◆ 附属中学校3年若栗ひとみさん「第45回 全国小・中学校作文コンクール」で文部大臣 奨励賞を受賞	17
寄稿 海外レポート		職員消息	
◆ ニュージーランド、オーストラリア の大学を訪ねて	11	◆ 住所変更	18
		主要行事	18



▲ 年末寒波で雪化粧した構内（12月26日）

関 係 法 令

- | | |
|---|---|
| <p>(府 令)</p> <p>○寒冷地手当支給規則の一部を改正する総理府令の一部を改正する総理府令（総理府57）（平7. 12. 20 官報第1796号）</p> <p>(省 令)</p> <p>○学校教育法施行規則の一部を改正する省令（文部21）（平7. 12. 26 官報第1800号）</p> <p>(規 則)</p> <p>○人事院規則 9 - 49（調整手当）等の一部を改正する人事院規則（人事院 9 - 49 - 8）（平7. 12. 15 官報第1793号）</p> | <p>○人事院規則17- 0（管理職員等の範囲）の一部を改正する人事院規則（人事院17- 0 - 40）（平7. 12. 25 官報第1799号）</p> <p>○人事院規則 9 - 55（特地勤務手当等）の一部を改正する人事院規則（人事院 9 - 55 - 36）（平7. 12. 28 官報第1802号）</p> <p>(告 示)</p> <p>○外国において学校教育における12年の課程を修了した者に準ずる者を指定する件の一部を改正する件（文部150）（平7. 12. 4 官報第1784号）</p> |
|---|---|

学 内 規 則

富山大学学位規則の一部を改正する規則

富山大学学位規則の改正理由

経済学部及び経済学研究科における学位に付記する専攻分野の名称を、より教育課程に適合した名称とするため、所要事項を改める。

富山大学学位規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成 7 年 12 月 15 日

富山大学長 小 黒 千 足

富山大学学位規則の一部を改正する規則

富山大学学位規則（昭和40年 1 月22日制定）の一部を次のように改正する。

第 3 条の 2 の表を次のように改める。

学士の学位に付記する専攻分野の名称

学 部	学科（課程）	専攻分野の名称
人文学部	人文学科 国際文化学科 言語文化学科	文 学

教育学部	小学校教員養成課程 中学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 幼稚園教員養成課程 情報教育課程	教 育 学
経済学部	経済学科	経 済 学
	経営学科 経営法学科	経 営 学 法 学
理学部	数 学 科 物 理 学 科 化 学 科	理 学

	生 物 学 科 地 球 学 科 生 物 圏 環 境 学 科	
工 学 部	電 子 情 報 工 学 科 機 械 シ ス テ ム 工 学 科 物 質 工 学 科 化 学 生 物 工 学 科	工 学

修士及び博士の学位に付記する専攻分野の名称

研究科	専 攻	専攻分野の名称	
		修 士	博 士
人 文 学 科 研 究 科	日 本 ・ 東 洋 文 化 専 攻 西 洋 文 化 専 攻	文 学	—
教 育 学 科 研 究 科	学 校 教 育 専 攻 教 科 教 育 専 攻	教 育 学	—

経 済 学 科 研 究 科	地 域 ・ 経 済 政 策 専 攻 企 業 経 営 専 攻	経 済 学 経 営 学	—
理 学 研 究 科	数 学 専 攻 物 理 学 専 攻 化 学 専 攻 生 物 学 専 攻 地 球 学 専 攻	理 学	—
工 学 研 究 科	電 子 情 報 工 学 専 攻 機 械 シ ス テ ム 工 学 専 攻 物 質 工 学 専 攻 化 学 生 物 工 学 専 攻	工 学	—
	シ ス テ ム 生 産 工 学 専 攻 物 質 生 産 工 学 専 攻	—	工 学

附 則

この規則は、平成 7 年 12 月 15 日から施行する。

富山大学学長選考規則の一部を改正する規則

富山大学学長選考規則の改正理由

- 1 選挙管理委員会委員が欠員となった場合の補充方法の整備を図るため、所要事項を改める。
- 2 学長候補適任者を推薦する場合の手続きの明確化を図るため、所要事項を改める。
- 3 選挙実施の特例として、信任投票に関する事項を新たに定める。

富山大学学長選考規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成 7 年 12 月 15 日

富山大学長 小 黒 千 足

富山大学学長選考規則の一部を改正する規則

富山大学学長選考規則（昭和 62 年 6 月 26 日制定）の一部を次のように改正する。

第 7 条第 5 項中「第 2 項」を「第 3 項」に改め、同条第 6 項中「委員が欠員となったときは」の下に「、当該学部長の指名により」を加え、同条第 7 項中「、第 18 条」を「、第 19 条」に改める。

第 10 条中第 4 項を第 5 項とし、第 3 項を第 4 項とし、同条第 2 項中「、前項」を「、第 1 項」に改め、同項を同条第 3 項とし、同条第 1 項の次に次の 1 項を加える。

2 前項の推薦に当たっては、推薦資格者は、あらかじめ学長候補適任者の承諾を得るものとする。

第 11 条中「第 2 項」を「第 3 項」に改める。

第 21 条を第 22 条とし、第 18 条から第 20 条までを 1 条ずつ繰り下げ、第 17 条中「本選挙」の下に「（信任投票を含む。）」を加え、同条を第 18 条とし、第 16 条を第 17 条とし、第 15 条中「第 1 回目の投票」の下に「（信任投票を含む。）」を加え、同条を第 16 条とし、第 14 条の次に次の 1 条を加える。

（本選挙実施の特例）

第 15 条 本選挙候補者が 1 人の場合は、前条の規定にかかわらず、記号による投票（以下「信任投票」という。）を行うものとする。

2 前項の投票は、信任の場合は○の記号を、不信任の場合は×の記号を記入するものとし、記入欄に記入のないものは○の記号とみなす。

3 前項の投票において、○の記号票が有効投票の過半数となったときは、当該候補者を学長候補当選者とする。

4 第 2 項の投票において、○の記号票が有効投票の過半数に満たないときは、改めて選考を行う。

附 則
この規則は、平成 7 年12月15日から施行する。

富山大学学長選考実施細則の一部を改正する細則

富山大学学長選考実施細則の改正理由

- 1 富山大学学長選考規則において、信任投票に関する事項が新たに規定されたことに伴い、信任投票の場合の無効投票に関する事項を新たに定める。
- 2 富山大学学長選考規則において、学長候補適任者を推薦する場合の手続きが改正されたことに伴い、所要事項を改める。

富山大学学長選考実施細則の一部を改正する細則を次のとおり制定する。

平成 7 年12月15日

富山大学長 小 黒 千 足

富山大学学長選考実施細則の一部を改正する細則

富山大学学長選考実施細則（昭和62年 6 月26日制定）
の一部を次のように改正する。

- 第 1 条中「第21条」を「第22条」に改める。
 第 9 条中「次に掲げる投票」を「単記無記名による投票において、次に掲げる投票」に改め、同条第 2 項を第 3 項とし、同条第 1 項の次に次の 1 項を加える。
 2 信任投票において、次に掲げる投票は、無効とする。
 (1) 所定の投票用紙を用いないもの
 (2) ○、×以外の記号又は字句を記載したもの
 (3) ○の記号と×の記号を共に記載したもの
 第10条中「第15条」を「第16条」に改める。

様式第 2 中

「このことについて、別紙の者を学長候補適任者として推薦します。」を

「このことについて、別紙の者を学長候補適任者として推薦します。

なお、推薦に当たっては、同人は承諾済みであることを申し添えます。」に改める。

様式第 5 に次の様式を加える。

学長候補者信任投票用紙

表 面	裏 面
富山大学学長選挙候補者 信任投票用紙 富山大学学長候補者選挙管理委員会 印	候補者氏名 (例) 富 山 太 郎 記入欄

附 則

この細則は、平成 7 年12月15日から施行する。

諸 会 議

第5回情報処理センター運営委員会（12月4日）

（議 題）

- (1) 総合情報処理センター設備準備について
 1. 日程について
 2. 次期「情報処理システム」の導入について
 3. 規則の作成について
 4. WGの設置とその作業内容について
 5. その他
- (2) 富山インターネット協議会（Triton）への接続について
- (3) その他

第3回学寮委員会（12月4日）

（審議事項）

- (1) 風呂燃料の負担区分について
- (2) その他

第6回事務協議会（12月7日）

（議 題）

当面の諸課題について

第1回大学院委員会（12月8日）

（審議事項）

- (1) 富山大学学位規則の一部改正について
- (2) 学位記の英訳文の交付等について
- (3) 自己点検評価委員会からの付託事項について
- (4) その他

第5回入学試験委員会（12月8日）

（審議事項）

- (1) 平成9年度及び平成10年度入学者選抜における旧教育課程履修者に対する経過措置について

第3回放射性同位元素総合実験室運営委員会（12月8日）

（議 題）

- (1) 機種選定委員会委員の選出について
- (2) 「大学等放射線施設協議会」への加入について
- (3) その他

第7回学生生活協議会（12月11日）

（審議事項）

- (1) 富山大学学生守則の改正について
- (2) その他

第2回教務委員会（12月12日）

（審議事項）

- (1) 学位記の交付等について
- (2) 学位に付記する専攻分野の名称の変更について
- (3) その他

第1回生涯学習教育研究センター設置準備委員会

（12月12日）

（議 題）

- (1) 委員長の選出について
- (2) 今後の進め方について
- (3) その他

第8回部局長懇談会（12月15日）

（議 題）

- (1) 当面の諸問題について
- (2) その他

第8回評議会（12月15日）

（審議事項）

- (1) 富山大学附属図書館長候補者の選考について
- (2) 富山大学学長選考規則及び同実施細則の一部改正について（継続）
- (3) 富山大学学位規則の一部改正について
- (4) その他

第6回情報処理センター運営委員会（12月18日）

（議 題）

- (1) 総合情報処理センター長候補者選考に関する日程について
- (2) その他

第2回生涯学習教育研究センター設置準備委員会

（12月19日）

（議 題）

- (1) 設置場所、施設、設備について

(2) その他

第4回教養教育委員会(12月19日)

(審議事項)

- (1) 平成8年度教養教育非常勤講師の任用計画(案)及び資格審査について
- (2) 平成8年度教養教育授業日程(案)について
- (3) その他

第3回公開講座委員会(12月22日)

(議題)

(1) 委員長の選出について

- (2) 平成8年度公開講座の実施計画について
- (3) 自己点検評価委員会からの付託事項について
- (4) その他

第1回体育施設運営協議会(12月22日)

(議題)

- (1) 体育施設の管理体制一元化について
- (2) ヨット艇庫の移転問題について
- (3) その他



学位取得者
学位の種類
取得年月日
学位論文名
論文の要旨

人文学部 教授 小谷 伸 男

博士(文学)(京都大学)

平成7年11月24日

クシャン王朝とガンダーラ美術

著者が1960年以来パキスタンにおいて仏教遺跡の発掘調査を行った成果を踏まえ、ガンダーラ美術の年代、図像学、歴史背景について論ずる。

漢とローマ、インドを結ぶシルクロード貿易を仲介して勢力を拡大、富裕と

なった中央アジアのクシャン民族が、ヒンドゥクシュ山脈を越えて南下した時、ガンダーラにおいて仏教徒と接触し、その結果かれらは財宝を以前のように自分の墓に副葬するのではなく、死後の保証を仏教信仰に求め寺院に寄進するようになった。それがガンダーラ仏教を興隆させ、当時の国際貿易のなかでギリシア・ローマ風ガンダーラ仏教美術を生む歴史背景であった。

平成7年度科学研究費補助金交付決定者一覧

研究種目	研究代表者			研究課題	交付決定額 (千円)	交付予定額 (千円)	
	所属	職	氏名		平成7年度	平成8年度	平成9年度
一般研究(C)	工学部	教授	長谷川 淳	排水中の農薬の光触媒分解	700	300	
〃	〃	助教授	松木 賢司	機械的容体化ーナノ結晶析出プロセスの最適制御による耐熱アルミニウム粉末合金の開発	1,300	700	

平成8年度入学者特別選抜試験を実施

去る11月29日(水)に特別選抜(推薦入学, 帰国子女特別選抜及び社会人特別選抜)試験が実施されました。

推薦入学は, 人文学部(平成8年1月17日に実施)を除き, 教育学部, 経済学部, 理学部及び工学部で, また, 帰国子女・社会人特別選抜は, 人文学部, 経済学部及び

理学部の各会場で, 小論文, 面接, 学力検査, 実技検査などの試験が行われ, 12月7日(木)に合格者が発表されました。

なお, 志願者数, 合格者数等は次のとおりです。



▲ 合格発表に見入る受験生・父兄等(平成7年12月7日(木))

平成8年度富山大学推薦入学、帰国子女・社会人特別選抜入学志願・受験・合格状況

区分	学部	学 科 等	募集人員	志願者数	受験者数	欠席者数	合格者数		
推薦入学	人文	人 文 学 科	6人	38人	—人	—人	—人		
		国 際 文 化 学 科	4	16	—	—	—		
		言 語 文 化 学 科	8	35	—	—	—		
		計 (注1)	18	89	—	—	—		
	教育	中学校教員養成課程	数 学 専 攻	2	8	8	0	2	
			理 科 専 攻	2	7	7	0	2	
			音 楽 専 攻	2	12	12	0	2	
			美 術 専 攻	2	9	9	0	2	
			保 健 体 育 専 攻	2	22	22	0	2	
			家 庭 専 攻	2	10	10	0	2	
			技 術 専 攻	2	3	3	0	2	
		情報課程	教 育 情 報 コ ー ス	6	18	18	0	6	
			環 境 情 報 コ ー ス	4	12	12	0	4	
			計	24	101	101	0	24	
	経済	日間コース	経 済 学 科	12	31	31	0	12	
			経 営 学 科	10	27	27	0	10	
			経 営 法 学 科	8	10	10	0	8	
			計	30	68	68	0	30	
		夜間コース	経 済 学 科	7	7	7	0	7	
			経 営 法 学 科	6	6	6	0	6	
	理学	数 学 科	数 学 科	15	85	85	0	18	
			物 理 学 科	6	10	10	0	7	
			生 物 圏 環 境 科 学 科	5	21	21	0	5	
			計	26	116	116	0	30	
		工	電子情報工学科	普通・理数科	13	29	29	0	13
				専門(工業)	6	17	17	0	7
			機械システム工学科	普通・理数科	10	28	28	0	10
専門(工業)				5	12	12	0	5	
物質工学科			普通・理数科	8	18	18	0	8	
			専門(工業)	4	5	5	0	4	
化学生物工学科	普通・理数科	8	17	17	0	8			
	専門(工業)	4	6	5	1	4			
計	58	132	131	1	59				
合 計 (注2)	176 (158)	529 (440)	439	1	163				
帰国子女特別選抜	人文	人 文 学 科	若 干	0	—	—	—		
		国 際 文 化 学 科	〃	0	—	—	—		
		言 語 文 化 学 科	〃	2	2	0	2		
		計	若 干	2	2	0	2		
	経済	日間コース	経 済 学 科	若 干	0	—	—	—	
			経 営 学 科	〃	2	1	1	1	
			経 営 法 学 科	〃	0	—	—	—	
		計	若 干	2	1	1	1		
	理	数 学 科	若 干	0	—	—	—		
		物 理 学 科	〃	0	—	—	—		
		化 学 科	〃	0	—	—	—		
		生 物 学 科	〃	0	—	—	—		
		地 球 科 学 科	〃	0	—	—	—		
		生 物 圏 環 境 科 学 科	〃	0	—	—	—		
	計	若 干	0	—	—	—			
	合 計	若 干	4	3	1	3			

区分	学部	学 科 等	募集人員	志願者数	受験者数	欠席者数	合格者数	
社会人特別選抜	人文	人 文 学 科	若 干	3	2	1	1	
		国 際 文 化 学 科	〃	2	2	0	1	
		言 語 文 化 学 科	〃	3	3	0	2	
		計	若 干	8	7	1	4	
	経済	夜間 コース 主	経 済 学 科	7	10	9	1	7
			経 営 学 科	6	12	12	0	6
			経 営 法 学 科	7	7	7	0	7
			計	20	29	28	1	20
	理		物 理 学 科	若 干	2	2	0	2
			化 学 科	〃	0	—	—	—
			生 物 学 科	〃	3	3	0	2
			地 球 科 学 科	〃	3	3	0	3
			生 物 圏 環 境 科 学 科	〃	4	4	0	2
		計	若 干	12	12	0	9	
		合 計		20	49	47	2	33
	総 計		196 (178)	582 (493)	489	4	199	

(注1) 人文学部推薦入学は、平成8年1月17日に入学試験を実施予定。

(注2) () 内の数字は、人文学部推薦入学を除いたものを示す。

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容
昇 任	8. 1. 1	吉田 正道	講 師 (工学部)	助教授 (工学部)
	〃	蓮覚寺 聖一	助 手 (工学部)	助教授 (工学部)
	〃	中村 優子	教務職員 (工学部)	助 手 (工学部)
辞 職	7. 12. 28	石田 裕子	事務補佐員 (人文学部・理学部)	辞 職
退 職	7. 12. 23	林 敏和	事務補佐員 (附属図書館情報サービス課)	平成7年12月22日限り退職した
	〃	青山 拓也	(〃 〃)	〃
	〃	大久保 英	(〃 〃)	〃
	〃	岩城時代美	(〃 〃)	〃
	〃	西村 憲一	(〃 〃)	〃
	〃	近藤 俊彦	(〃 〃)	〃
採 用	7. 12. 1	矢後 恵美		技術補佐員 (保健管理センター看護婦)

ニュージーランド、オーストラリアの大学を訪ねて

教育学部 教授 山地 啓司

オタゴ大学はニュージーランドの南端にある都市、ダニーデン市にある。ダニーデン市は人口約11万人のニュージーランド第5番目の学園都市で、三方を山で囲まれ、一方を自然の良港に恵まれた港町でもある。街の通りに並ぶ伝統ある19世紀時代のゴシック様式の建物はかつての繁栄を偲ばせる。国立オタゴ大学にはこの国唯一の体育学部があり、国内はもとよりアジア各地からスポーツ科学に自信と興味を持った若者が集まってくる。今日、オタゴ大学はニュージーランドのスポーツ科学のメッカとしてその地位を不動なものにしている。

体育、スポーツの学問分野は複合領域に属し、各学問分野と密接な関係を有している。総合大学であるオタゴ大学では、体育学部の専任スタッフの中に他学部と兼任の教授が名を連ね、学部学生の卒論、修論、学位論文まで実質的に指導し、スタッフの陣容がより充実したものとなっている。ただ、学生・院生のスポーツ科学や学問全体に対する情熱や姿勢はアメリカ、カナダに比べて必ずしも上回っているとはいえない。訪問中、学年末試験に出くわしたが、アメリカやカナダでみられた教師との真剣な議論や階段・廊下等で所かまわず勉学する姿には一度も出合わなかった。

ニュージーランドの政治、経済、産業あるいは学問にも言えることだが、近隣のオーストラリアを意識し、そして遠く英国や米国に習おうとする。しかし、それを陵駕しようとする意識は希薄なような気がする。二言目にはオーストラリア、イギリスでは…と続く。帰国の途上オーストラリアのシドニーやパースに立寄ったが、オーストラリアはイギリスに見習おうとする。属国ではないが母国イギリスに憧れ、尊敬する。この傾向は当分変わりそうもない。

ニュージーランド人もオーストラリア人も旅が好きである。土・日は勿論、ウィークデーにも人里離れたハイキングコース、トレッキングコース、登山道には大きなリュックサックを担いだ若者が闊歩する。ヒッチハイクや自転車で国内を旅している若者も少なくない。老いてはマイカーやキャンピングカーで夫婦が旅を楽しんでいる。彼らの旅好きは、かつて狩猟民族であつたからとい

う理由だけで説明できるのであろうか。

好きなのは旅だけではない。乗馬、ヨットやボート、サーフィン、ウォーキングやランニング、ラグビーやクリケット、テニス、ゴルフ等々、とにかく活動的なのである。生活や人生をエンジョイするためには計り知れないエネルギー、時間そして費用をかける。若者の多くは大学を卒業し就職もせず青春を楽しんでいる。今は青春する時で、今を逃すともう青春できなくなる。青春時代のこれらの経験は就職の際マイナスになることはない、と彼らは言う。

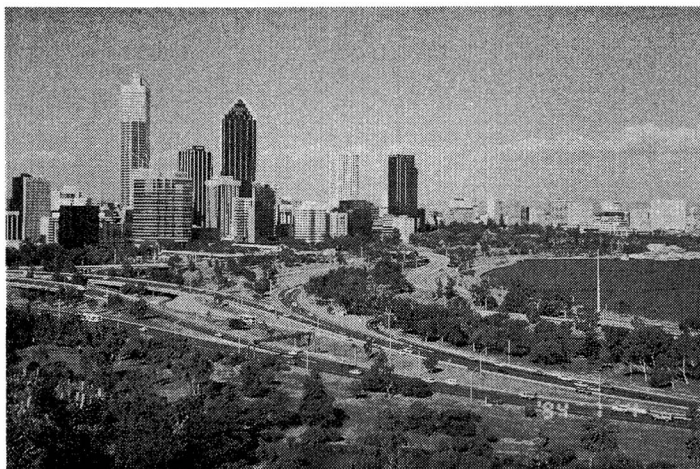
ニュージーランドやオーストラリアの大学の施設や研究設備は羨むばかりに充実している。シドニー大学や西オーストラリア大学ではその施設に劣らず研究スタッフも質量共に豊富である。その理由の一つに、各学部各自が公開講座や各種イベントを開催し、その収益を財源として専門的技術者を数多く雇い入れていることが挙げられる。今では彼らは教育研究の貴重な存在としてその地位を不動なものにしている。また、スポーツ講座等の実技指導は院生、学生があたり、その体験や評判は就職の際の貴重な参考資料となっている。このような大学、学部独自の事業による収益は特色ある大学、学部づくりに大きく貢献している。これらの恵まれた教育研究の環境、施設、スタッフ、機器等を目の当りにすると、わが国の才能ある若者が海外の大学や研究所で働きたくなるのも当然のような気がする。

今回で三度目の長期海外生活であった。以前も感じたが、現在の日本の科学技術の高い水準と経済大国のバックグラウンドのおかげで、不思議な日本人の私に対して両国民はそれなりの礼儀と親切さで対応してくれた。しかし、その一方で笑顔の奥に見え隠れする人種に対する根強い差別意識や時には態度、物事の見方や考え方の微妙な相違（それは多分に価値判断や評価基準の相違からくるものであろうが…）、感情の激しさ、厳しさや冷たさ等々、身近に生活してみても初めて知り得る日本人と外国人の相違を垣間見るにつけて、つくづく国際化の難しさを感じた。しかし、異なった風土、文化、社会等の歴史の中で培われてきた国民性を相互に理解するように努力

しない限り、日本人の真の国際化も得られないだろう、
と思う。

最後に、二か月間にわたって任地を離れ、研究に打ち

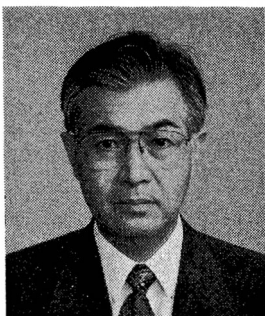
込む機会を与えて下さった文部省、富山大学に感謝する
とともに、この貴重な体験を今後の教育研究の場で生か
していきたいと思う。



▲ キングパークから望むパース市街（オーストラリア）

学 内 諸 報

次期附属図書館長に瀧澤教育学部教授を再選



瀧澤 弘現附属図書館長の任期が平成8年2月19日で満了することに伴う次期附属図書館長候補者の選考が、去る平成7年12月15日（金）開催の第8回評議会において、教育学部瀧澤弘教授が再選されました。任期は、平成8年2月20日から2年間。

瀧澤教授は、昭和32年3月富山大学文理学部文学科卒業、同35年3月九州大学大学院文学研究科修士課程を修了、同36年6月鳥取大学学芸学部助手に採用され、同39年1月同講師、同42年4月同教養部講師、同年12月同助教、同49年5月富山大学教養部助教授、同53年4月同教授、平成5年4月同教育学部教授となり、現在に至っています。

担当は、ドイツ語ドイツ文学、富山県出身

（就任の抱負）

学長はじめ、皆さんの御協力と御尽力によって、本年度第2次補正予算で、念願の図書館の増改築が決まり、こんな嬉しいことはありません。

今回、私に与えられた課題は、この増改築の機に臨み、大学附属図書館としての機能を更に一層強化し、時代に即応して研究・教育と学習を支える体制を作る事だと思っています。衆智を集めて、これに取り組む所存でありますので、御支援をお願い申し上げます。

《1995年“日本留学フェア（中国）”に参加して》

平成7年度日本留学フェアは、去る12月2日（土）・3日（日）の2日間、中国北京市国際会議センターにおいて、日本国際教育協会・中国留学服務中心の共催、日本国文部省、駐中国日本大使館、中国国家教育委員会外事司の後援、中国教育国際交流協会、留日帰国者の会の協力により日本の国立大学16校、公立大学1校、私立大学30校と日本語教育振興協会、内外学生センター2機関の総勢85名が参加しました。（富山大学からは、教育学部の松村教授と学生課留学生係長が参加した。）

日本留学フェアは、日本留学希望者が、自らの留学に合った教育機関を選択し、実りある留学を達成できるようにするため、我が国の大学等の参加を得て、我が国の事情や個々の大学等の教育、研究上の特色等に関する的確な情報を提供することを目的として平成元年度から実施されています。

フェアには、両日で5,200人の参加者があり足の踏み場もない会場内において日本紹介等の16ミリ映画の上映と日本国際教育協会及び日本留学経験者による日本留学の概況説明及び質疑応答が行われました。

富山大学の紹介コーナーには約240人の相談者が訪れ、

本学の教育・研究内容、入学試験の概要、生活環境、入国手続き等に関する具体的な質問があり熱心にメモを取っていました。

なかには、息子や娘を留学させたいという父兄や何十時間もかけて遠方（内モンゴル、四川省など）から来ている人もおり、日本留学熱は中国全土に広がっている様子がうかがえ、今後の情報提供の在り方など留学生受入れ等の対策を検討する上でも有益なものとなりました。



▲ 1995年日本留学フェア（中国北京市国際会議センター）

《富山県留学生等交流推進会議及び座談会—富山での留学生活で思うもの・望むもの—を開催》

平成7年度富山県留学生等交流推進会議（議長：小黒千足富山大学長）が、去る11月30日（木）市内のパレ・ブラン高志会館において、高等教育機関・地方公共団体・経済団体・国際交流団体等の方々を迎えて開催されました。

総会では、小黒学長の挨拶の後、県内留学生の受入れ状況及び留学生に対する支援状況等について報告がありました。

続いて、協議に入り、①留学生受入れの現状と課題について ②外国人留学生に対する富山県内文化施設等の無料開放等について熱心な協議が行われ、県内留学生への各種支援について順次改善が図られるよう小黒学長から関係機関に対する協力依頼がありました。

引き続き、「富山での留学生活で思うもの・望むもの」をテーマにした座談会が開かれ、県内在住の5人の留学

生からそれぞれ話題提供があり、活発な意見交換が行われました。



▲ 富山県留学生等交流推進会議

留学生からは、

- ・アルバイトのできる時間をもっと認めてほしい。
- ・文部省奨学金を受けられる留学生をもっと増やしてほしい。
- ・アフリカからの留学生をもっと増やしてほしい。
- ・日本語をうまく理解できないので、いろいろな情報を英語で伝えてほしい。
- ・留学生同志の情報交換の場所を設けてほしい。
- ・キャンパス内の照明を明るくしてほしい。
- ・日本人でも富山のことをあまり知らないで、富山のことをもっとアピールしてほしい。

など財政的支援だけではなく、外国人の身になった心の支援をお願いしたいとの発言がありました。一方、推進会議委員からは、

- ・いろいろな行事を企画しているので、積極的に参加してほしい。

・現在、留学生の情報交換を自由にできる施設を計画中であるので期待してほしい。

などうれしい情報も報告され、財政的支援に加え心の支援の充実にむけて実りある推進会議となりました。



▲ 活発な意見を交換する留学生一座谈会

《学長主催による外国人研究者及び留学生との懇談会を開催》

—— お国の歌や踊りの披露で大いに盛り上がる ——

「学長主催による外国人研究者及び留学生との懇談会」は、去る12月8日（金）に市内のパレ・ブラン高志会館において開催されました。

懇談会では、本学外国人研究者及び中国、マレーシアなど17カ国の外国人留学生約140名、小黑学長をはじめ浜谷学生部長、菊地事務局長、各部局長、国際交流委員会委員、指導教官、留学生担当職員など80名が参加し、和やかな雰囲気の中で開幕されました。

はじめに、小黑学長から外国人留学生らに対する激励のあと、本学職員による、箏曲「六段」の調べに乗せての日本舞踊の披露があり、ついで本学学生ギター・マンドリンクラブのマンドリン演奏、中国留学生の琵琶独奏の披露があり、続いて、マレーシア民謡「ラサー・サヤング」、中国「太極拳」、台湾民謡、中国舞踊など、さまざまな異国の文化・芸能の披露に会場を埋めた参加者らは、カメラやビデオに収める等盛んに拍手を送っていました。

おわりに、学長を囲んで、教職員と留学生が「上を向いて歩こう」を合唱した後、浜谷学生部長の閉会のあい

さつがあり、和気あいあいのうちに懇談会が締めくくられました。

これを通して留学生等には、他国の伝統文化・芸能に触れる機会が提供できたこと及び相互理解が深まったことなど有意義な懇談会となりました。



▲ 「上を向いて歩こう」を合唱する

学長・教職員と留学生

海外渡航者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	教育学部	助教授	木川栄一	オマーン	海嶺におけるエネルギー・物質フラックスの解明に関する国際共同研究のための調査に参加	7.12.11 } 7.12.30
	工学部	助手	草開清志	アメリカ合衆国	JIM '95年秋期ハワイ大会に出席、発表	7.12.11 } 7.12.17
	〃	教授	佐治重興	アメリカ合衆国	日本金属学会1995年秋期ハワイ大会に出席、研究発表及び日本金属学会「環境と教育」研究討論会に出席	7.12.12 } 7.12.19
	〃	助手	寺山清志	アメリカ合衆国	日本金属学会1995年秋期ハワイ大会に出席、研究発表	7.12.12 } 7.12.17
	〃	助教授	山田茂	アメリカ合衆国	日本金属学会1995年秋期ハワイ大会に出席、研究発表	7.12.12 } 7.12.17
	理学部	教授	松浦郁也	オランダ	酸化物の触媒・光触媒会議に出席及び研究打合せ	7.12.15 } 8.1.8
	工学部	教授	宮下尚	アメリカ合衆国	1995環太平洋国際化学会議に出席、研究発表	7.12.16 } 7.12.24
	〃	教授	長谷川淳	アメリカ合衆国	1995環太平洋国際化学会議に出席、研究発表	7.12.17 } 7.12.23
	〃	教授	黒田重靖	アメリカ合衆国	1995環太平洋国際化学会議に出席、研究発表	7.12.17 } 7.12.24
	〃	助教授	小田晃規	アメリカ合衆国	1995環太平洋国際化学会議に出席、研究発表	7.12.17 } 7.12.24
	〃	助手	蓮覚寺聖一	アメリカ合衆国	1995環太平洋国際化学会議に出席、研究発表	7.12.17 } 7.12.24
	〃	教務職員	中村優子	アメリカ合衆国	1995環太平洋国際化学会議に出席、研究発表	7.12.17 } 7.12.24
	〃	助手	佐山三千雄	アメリカ合衆国	1995環太平洋国際化学会議に出席、研究発表及びC-FESたん白質の細胞内シグナルトランスダクションに関する研究打合せ、研究資料収集	7.12.17 } 8.1.3
	理学部	教授	平井美朗	アメリカ合衆国	1995環太平洋国際化学会議に出席	7.12.17 } 7.12.24
	〃	助教授	樋口弘行	アメリカ合衆国	1995環太平洋国際化学会議に出席、研究発表	7.12.17 } 7.12.23
	〃	教授	高安紀	アメリカ合衆国	1995環太平洋国際化学会議に出席	7.12.17 } 7.12.24

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
外国出張	理学部	教授	田 口 茂	アメリカ合衆国	1995環太平洋国際化学会議に出席	7.12.18 ∧ 7.12.24
	〃	助教授	笠 原 一 世	アメリカ合衆国	1995環太平洋国際化学会議に出席	7.12.18 ∧ 7.12.24
海外研修	教育学部	教授	吉 田 和 夫	アメリカ合衆国	1960-1970年代イースト・ウェストセンターの果たした役割の評価検討日米合同会議に出席	7.12. 2 ∧ 7.12. 7
	理学部	教授	小 島 覚	アメリカ合衆国	北極域の研究推進国際会議に出席及び研究打合せ	7.12. 3 ∧ 7.12.14
	工学部	講師	堀 田 裕 弘	シンガポール	コンピュータビジョンに関する第2回アジア国際会議 (ACCV'95) に出席	7.12. 4 ∧ 7.12. 9
	教育学部	助教授	市 川 文 彦	タイ	第4回タイ・日本共同比較史セミナー：日本における農村共同体の歴史-国際比較の観点から検討-に参加	7.12. 7 ∧ 7.12.12
	〃	教授	山 地 啓 司	アメリカ合衆国	ホノルルマラソン走行中の運動強度に関する研究及びハワイ大学で資料収集	7.12. 9 ∧ 7.12.14
	工学部	教授	池 野 進	アメリカ合衆国	1995年度第117回日本金属学会秋期大会ハワイ大会に出席	7.12.12 ∧ 7.12.17
	〃	助手	松 田 健 二	アメリカ合衆国	1995年度第117回日本金属学会秋期大会ハワイ大会に出席	7.12.12 ∧ 7.12.17
	経済学部	教授	中 島 信 之	大 韓 民 国	Japan and Korea Joint Seminar on International Telecommunication under Uncertainty and Operations Researchに出席及び研究打合せ	7.12.13 ∧ 7.12.18
	理学部	助教授	金 森 寛	アメリカ合衆国	1995環太平洋国際化学会議に出席	7.12.17 ∧ 7.12.24
	〃	教授	安 田 祐 介	アメリカ合衆国	International Chemical Congress of Pacific Basin Societiesに出席	7.12.16 ∧ 7.12.24
	教育学部	教授	原 稔	アメリカ合衆国	環太平洋国際化学会議に出席研究発表及びハワイ大学化学科Rechnitz教授と研究打合せ	7.12.16 ∧ 7.12.24
	経済学部	助教授	志津田 一彦	連 合 王 国	香港における海事資料の調査	7.12.18 ∧ 7.12.23
	〃	助教授	角 森 正 雄	アメリカ合衆国	アメリカ合衆国裁判制度及び民事訴訟法に関する調査・資料収集	7.12.22 ∧ 8. 1. 9
	人文学部	助教授	メアリー・アンムラジアン	アメリカ合衆国	日米関係論英語教育方法の(教材)研究	7.12.23 ∧ 8. 1.10

外国人来訪者

氏名 (国籍)	本国における 所属機関・職名	来学目的	本学受入れ先	期間
パク 白 (韓国)	江原道内務局 職員	共同研究	経済学部 教授 中藤 康俊	7. 12. 1 / 8. 11. 29

附属中学校 若栗ひとみさん

「第45回全国小・中学校作文コンクール」で文部大臣奨励賞を受賞

このたび、「第45回全国小・中学校作文コンクール」(主催：読売新聞社、後援：文部省、全国都道府県教育委員会)において、本学教育学部附属中学校第3学年の若栗ひとみさんが、『パトリシアさんのくれたもの』で文部大臣奨励賞を受賞しました。

中学校作文の部において、全応募作品38,052編の中から厳選されての、最高賞ともいえる、真に栄誉ある賞の受賞であり、附属中学校としても、今後の生徒の励みとなる、すばらしい快挙であると、多いに喜んでいきます。

去る12月9日、東京のホテル・ニューオータニで、高円宮両殿下の御臨席の下で開催された、映えある表彰式に出席した若栗さんは、一緒に表彰式に参列した顧問の澤井教諭と共に、その喜びを次のように(得意の作文で!)語ってくれました。

・受賞の喜び 若栗ひとみ

東京での表彰式、小学校低学年から中学生まで、たくさんの受賞者が集まっていました。彼らはみんな、喜びに輝いていました。私もまた、喜びに満ちあふれていました。暑い夏休みの間懸命に努力して作品を完成させた喜び。そして、それが認められた喜び。努力したからこそ感じる事ができたのだと思います。それらは、今後私が生活していく上で、とても大きな力となっていくのではないかと思います。

・受賞に際して

指導教官 附属中学校教諭 澤井 隆

若栗さんの作品を初めて読んだとき、カルチャーショックを受けました。中学生という年代で、生け花の極意、日米の文化の違い、それを通しての自分の生き方への模索が、原稿用紙31枚に綴られていたからです。しかも、全体の組み立てや何気ない表現の中に、読み手を魅きつける要素がちりばめられています。生徒を見る目が変わりました。生徒たちはすばらしい可能性を秘めているのだと私に教えてくれた、印象に残る受賞です。



▲ 受賞後の表彰式会場にて

職 員 消 息

〈住所変更〉

部 局 名	官 職	氏 名
人 文 学 部	助 教 授	佐 藤 朋 之
教 育 学 部	助 教 授	呉 羽 長
工 学 部	講 師	西 野 誠 一

主 要 行 事

本 部

- 12月 1 日 第 22 回北陸地区国立学校施設担当者連絡協議会 (福井大学)
- 2 ~ 3 日 日本留学フェア (北京 中国)
- 4 ~ 8 日 平成 7 年度文部省施設担当職員研修会 (オリンピックセンター)
- 5 日 第 4 回国際交流委員会学術交流部会
- 5 ~ 6 日 平成 7 年度厚生補導研究会 (宇奈月)
- 7 日 国有財産台帳価格改定説明会 (北陸財務局)
第 7 回教養教育委員会企画専門委員会 (持ち回り)
推薦入学, 帰国子女社会人特別選抜合格発表
- 8 日 第 1 回放射性同位元素総合実験室自己点検評価委員会
学長主催による外国人研究者及び留学生との懇談会 (高志会館)
- 9 日 体育会総会 (黒田講堂)
- 11 日 第 5 回教養教育委員会実施専門委員会
- 12 日 厚生補導業務研修会
- 12~18 日 人文学部推薦入学願書受付
- 13 日 第 6 回カリキュラム等見直し検討小委員会
厚生補導業務研修会
- 14 日 政府調達に関する説明会 (東京医科歯科大学)
- 15 日 平成 8 年度大学入試センター試験入試担当者連絡協議会 (国立教育会館 東京)

- 19 日 第 3 回学生相談のあり方検討会
- 22 日 非常勤職員給与計算システムワーキンググループ会議 (金沢大学)
- 28 日 仕事納め

人 文 学 部

- 12月 1 日 学部情報処理委員会
- 6 日 学部教務委員会
教授会
- 12 日 学部国際交流委員会
- 13 日 学部将来計画委員会
予算委員会
- 15 日 学部将来計画委員会
- 18 日 学部教務委員会・教務担当者合同会議
学部教務委員会
- 20 日 教授会
大学院人文科学研究科委員会
- 21 日 大学院人文科学研究科教務等検討委員会
- 25 日 学部国際交流委員会

教 育 学 部

- 12月 1 日 学部学生生活委員会
- 4 日 拡大学院教育実習検討委員会
学部将来計画委員会小委員会

- 学部入学試験委員会
仕様策定委員会
5日 附属養護学校入学者選考
6日 学部学生生活委員会
学部教務委員会
学部教務・学生生活合同委員会
教育学研究科委員会
教授会
人事教授会
附属養護学校合格者発表
附属幼稚園入園児発育検査（3歳児）
7日 〃 （4歳児）
8日 〃 合格者発表
11日 附属幼稚園入園児第2次選考（抽選）
附属養護学校第2次募集願書受付
（1月16日まで）
12日 教育実習運営協議会
仕様策定委員会
18日 学部教育実習検討委員会
附属幼稚園第2学期終業式
20日 学部拡大将来計画委員会
教育学研究科委員会小委員会
附属小学校第2学期終業式
21日 附属中学校第2学期終業式
22日 附属養護学校第2学期終業式
25日 学部自己点検評価委員会

経済学部

- 12月4日 学部将来構想検討委員会
5日 学部教務委員会
大学院経済学研究科委員会小委員会
6日 人事教授会
大学院経済学研究科委員会
教授会
7日 日本海経済研究所運営委員会
12日 学部施設整備委員会
14日 財務委員会
18日 大学院経済学研究科委員会小委員会
学部学生生活委員会
19日 学部教務委員会
20日 博士課程設置検討委員会
人事教授会
大学院経済学研究科委員会

教授会

21日 財務委員会

理学部

- 12月1日 学部教務委員会
5日 学科長会議
6日 大学院理学研究科委員会
教授会
人事教授会
8日 学部情報化対策検討委員会
20日 学部教務委員会
動物実験委員会
予算委員会

工学部

- 12月5日 博士後期課程主任会議
6日 教授会
研究科委員会
専任教授会
博士後期課程委員会
7日 外国人留学生委員会
11日 仕様策定委員会
20日 教授会
教官懇談会
26日 国際交流委員会
27日 若手教官との懇談会

附属図書館

- 12月1日 第3回年史編纂項目・構成等検討小委員会
11日 第3回附属図書館機能強化検討小委員会
22日 第4回年史編纂項目・構成等検討小委員会

地域共同研究センター

- 12月8日 企業見学と産業交流会（オリジン工業(株)）
21日 先端技術講演会
22日 先端技術講演会

編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あけぼの企画株式会社
富山市住吉町1丁目5-18
電話 (24)1755(代)